

9月定例教育委員会 会議録

日	時	平成30年9月12日(水) 午前9時30分～午前10時20分									
場	所	甲府市役所 9階 会議室9-2									
出席委員	小林教育長・小宮山職務代理者・原委員・堀委員・市川委員										
出席事務局職員	嶋田教育部長・饗場教育総室長・山本生涯学習室長(生涯学習課長兼任)・星野総務課長・松田学校教育課長・宮川学事課長・照沼教育施設課長・本田甲府商業高等学校事務長・碓井甲府商科専門学校事務長・田中歴史文化財課長・小林スポーツ課長、本田図書館長・芦川総務課課長補佐・宮川総務課課長補佐・鷹野総務課課長補佐・保坂総務課主任										
傍聴人	1名										
署名委員											
委員会書記											
・教育委員あいさつ											
・会議録署名委員の指名 小宮山職務代理者											
・8月定例会及び臨時会会議録の承認 原案のとおり承認											
<table style="margin: auto; border: none;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">小林</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">堀</td> <td></td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">小宮山</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">市川</td> <td></td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">原</td> </tr> </table>			小林			堀		小宮山	市川		原
小林											
堀		小宮山									
市川		原									
<p>1 開会</p> <p>小林教育長</p> <p>これより9月定例教育委員会を開会します。</p> <p>(1) 教育委員あいさつ</p> <p>小宮山職務代理者</p> <p>みなさんおはようございます。あと数日この天気が続きますと「この夏はどんな夏だったかな」と感じるような季節で、いよいよ過ぎやすくなりました。前回市川委員のお話をお聞きして、また、議事録を読ませていただいて、ふとあることを思い出しました。今から30年以上前、私の子どもがまだ小学校1、2年で、その下の子どもがまだ幼稚園という時に私は、夏に大阪の堺市にありますが大阪府立大学に潜り込んで色々勉強を2ヶ月くらい行っていました。7月の中旬から9月の中旬くらいまで行ったのですが、大阪府立大学は堺市にありましてキャンパスが非常に広く、うっそうと木が茂っているところで、その大学は私の研究の関係で知り合った、藤本義一さんの出身大学でした。</p>											

8月になりましたら四畳半の下宿を借りまして、非常に緊張感を持って研究とか論文を書きに出かけたところ、朝方から「しゃーしゃーしゃーしゃー」と物凄い騒がしい音が大学の中に聞こえました。山梨では全く聞くことができない音で何の虫だろうと思ったわけですね。それが後で分かったのですが、クマゼミというセミでした。物凄くうるさくて今でも夏になりますと大阪に居たときを思い出します。8月の下旬に家内と二人の子どもを呼んで、3、4日研究室に休みをもらって関西を少し案内したのですが、帰りのお土産に死んだクマゼミだとあれなので山梨に帰って生きたものをもと思いまして、生きたクマゼミを箱に入れて持たせました。後で聞きましたら新幹線に乗ってから一駅持たずに中で鳴き始めまして、結局京都駅で放したという思い出があります。大阪に行きますとクマゼミが鳴き続けるあの騒々しいうるささが夏の風物詩だと思って地域における自然保護ということをちょっと思い出しました。これは前回の引き続きの私の感じたことの余談です。

今、甲府市の教育の中で「思い遣る心」ということを中心に教育展開をしていると思いますが、そのことで2週間くらい前に、CATVの日本映画チャンネルという専門チャンネルを見ることがあり、通常は見ない時にパッとつけましたら白黒の1957年、随分昔の映画の簡単なストーリーです。ほのぼのとした男女が新しい生活を始めていくという映画でございまして、主役が白川由美さんという女性で、ご主人役の方が小泉博という方です。小泉博扮する若尾さんが1957年頃海運会社に勤めておりました、ある日支店長から呼ばれまして、支店長から「オレの娘をもらわないか」と言われましたが、彼はその時に生涯を決める女性を頭の中に描いていて、はっきりとその時に同じ職場に勤めていた雅子さんという方の事を思い出して、その日の夜チケットを自分で買いながら、友達からもらったと嘘をついて映画に誘いました。そしてその映画が終わった後に食事をして自分の心を告げると、相手も私も嬉しいということで支店長へ断りを入れるのです。断りを入れると当時の時代なので支店長が怒りまして、その娘は自分と出世争いをしている同僚が娘さんをもらってすぐ課長になってしまうのです。一方で主役の相手役であります小泉博扮する若尾という男は、是非とも結婚したいということで、当時当然のことながら家庭の中では、まだまだ戦後であっても昔の父親の家制度の時代であって、その主人公の父が志村喬さんという俳優で黒澤明監督の映画には絶対に欠かすことのできない俳優でして、「認めない」というのですね、「大体順序が違うだろう」と。結婚する前にまずこういう方と結婚したいということであれば親が調査をして、そして相手に将来性があるのなら親が許可するというので、調査をするのですが、その支店長のところへ行くと悪いうわさしか聞かないので認めないということになってしまいます。結婚を認めてくれないということで、彼女は家を飛び出します。実は志村喬演じる清水家にはもう1人お姉さんがいて、そのお姉さんは津島恵子さんというすごい美人な方で、その旦那さんが三船敏郎でした。三船敏郎は音楽家で、結婚を認めてもらえず姉も家を飛び出してしまっていました。お前もそういう結婚するならば二度とこの家の敷居を踏むな、と言って追い出すのです。お母さんは悩むわけです、長女は家出同然に出て行ってしまって、次女もそういう形になってしまい悲しんでいる時に志村喬がこういうことを言うのですね、私も自分の娘がダメだろうとなんであろうと、どうしても結婚したいというのであれば認めてやりたいと。そして認めるつもりだった。しかし、ここで認めてやったのでは彼女は必ず家に頼るであろうと、そこで思い切ってこれからの人生は、彼しか頼る人がいないということを実感させるためにああいうことを言ったのだということを書いて、私はその言葉が一番印象的でした。思い遣る心というのは一体何だろうかと、どちらかというと今、慈悲的な心を思い遣る心と言っているの

すね。そして、慈悲というのは意外と私も気が付きますけど、自分が慈悲を与えた方は結構うれしいですね。例えば助けてあげると、相手が喜ぶので自分もうれしい。しかし、その映画の中では、この二人に幸あれと書いてあるのですが、映画の本文にはこの二人に幸あれと読むらしいですね。そういう古い白黒の映画だったのです。そしてその時に私は、ふと思い遣る心というのを感じまして、思い遣る心というのもしかすると勘違いしているところがあるのではないかなど。要するに相手の人生を今後しっかりと生きてもらうために、慈悲を与える人間が苦しまなければいけないということだと思いました。本当の思い遣る心とは何か、ということを感じまして自分自身にとっては苦しいけども、子どものためにしっかりとこれから生きていくためにサポートするというイメージ、そのサポートの意味が、やはり慈悲的な心ではなく、本人が自立し世の中で強く生きていく、そういうところに思い遣る心というものがあるのだと思います。教科書的にはそういうことがありますけど、日常生活の中で本当の意味で我々が思い遣る心というのを行使しているのかと思うと、意外と今、経済的に豊かな時代なので困ったらお金をあげるとか、車を買ってあげるとか、そういうことをして実は、思い遣る人間の方がいい気持ちになっていると。そして結局、子どもは困ったら親のところに行ってお金をもらえばいいと、それが本当の思い遣る心なのかなあということはこの「この二人に幸あれ」という、短い1時間半くらいの映画で感じました。勿論その話は後段がありまして、その出た二人の生活が苦しい局面があるのですが、二人これからしっかりとがんばろうというところでエンディングになるのです。

改めて思い遣る心、やはり甲府市の子ども達、我々もそうですけど自立してできるだけ頼ることなく自分の力で一生懸命努力して生きていくということが重要であり、そういった機会を与えてやるのも思い遣る心に繋がっていくのではなかということを感じました。以上でございます。

(2) 会議録署名委員の指名

小林教育長

会議録の署名委員は、小宮山職務代理者を指名します。

(3) 前回会議録の承認

小林教育長

前回の議事録についてですけど、事前に配布されていると思いますけども、それについて何かご意見ありますでしょうか。

よろしいでしょうか。

では承認いただいたということでありがとうございます。

【原案どおり決定】

(教育委員会承認)

2 議事

(1) 議題

小林教育長

報告 第12号 平成30年度全国学力・学習状況調査の甲府市における調査結果のポイントについて 資料に基づきまして、松田学校教育課長より説明をお願いします。

(松田学校教育課長より資料に沿って説明)

小林教育長

説明が終わりました。これより質疑に入ります。ご意見、ご質問等ありませんか。

小宮山職務代理者

1 ページの「教科に関する調査の本市の結果について」のところですけど、全国・山梨県の点数と甲府市に対する国と県との比較のところの中学3年生の数学のA問題のところ、平均正答率が全国 66.1、山梨県 66 となっていて、県との比較だと「同じか上回っている」となっているんですけど、国との比較だと「下回っている」となっているというのは平均正答率がほとんど同じなのにどうして△と○がついているのかなと思ったのですが、この辺の理解はどのようにすればよいでしょうか。

松田学校教育課長

これまで全国、都道府県の平均なども少数第一まで明確に示されていたところですが、あまりにも細かいところまで出すことによって点数だけが全国的にも大きな話題になってしまうような弊害から文部科学省が都道府県の平均値は整数値までということにしております。ですから、全国の方は四捨五入して 66.1、都道府県のほうは四捨五入して 66 ということになっておりまして、この数値だけを見ると 0.1 の差になりますが、実際そこにはもう少し差があるということになります。

小宮山職務代理者

県との比較で「同じかあるいは上回っている」となっていて、国との比較だと「下回っている」となっているのは、小数点以下の数字がここに入った中で比較した結果という理解でよろしいでしょうか。

松田学校教育課長

はい。

小宮山職務代理者

他のところなどはなんとなく四捨五入しているのだろうと差を見ているとわかるんですけど、何でここだけ 0.1 しか差がなくて県よりは上回っていて、国よりは低いという矛盾するような結果になるのかと感じた次第です。

小林教育長

国も厳密に言えば小数点第二位を四捨五入していますから 60.05 でも 60.1 になってしまいますから、本当に小数点以下のそういう差をどう見るかということになります。

小宮山職務代理者

正答率の○と△のこの基準の比較というのは、この全体の結果という中では四捨五入してしまうからわからないということですね。四捨五入すると結果としてほぼ同じになってしまうけれど、県を上回っていて国よりも下というのは0.1の間の中の議論になっているような気がしたので、わかりました。一応全部同じルールで比較して○と△が付いているということですね。

小林教育長

他にはないでしょうか。

原委員

今年のデータも見返してみたりしたのですが、ここにも書いてあるとおりに平成25年度に下回っていたものに改善がみられているということで、少しずつ良い方向に向っているということで家庭や先生方の努力や教育委員会としての課題や方策が正しかったということだと思います。

色々なデータが出ていますが受ける子ども達は毎年違いますし、問題も違いますので一概に限定的なことは言えないと思うのですが、甲府市の教育委員会としてこの調査の目指すところというのでしょうか、データのなところも含めてどんな立ち位置というか、場所を目指しているのか、もし考えがあるのでしたら教えていただきたいです。

松田学校教育課長

お話のとおり本調査で計ることができるのは、子どもたちの学力の一部とも言われておりますし、同時に行われております資料後半の質問紙調査の部分も非常に重視しているところではありますが、これまで教科に関する調査につきましても全国平均というのを一つの目安ということにして取り組みを進めております。

原委員

ではもう少しという感じですかね。全国を上回れるようなイメージでということによろしいでしょうか。是非よろしくお願いします。

小林教育長

内容的な活かし方というのはどうなのでしょう。

松田学校教育課長

もちろん全国平均というのを一つの目安として取り組みを進めておりますが、本資料の中にもありますけれども、例えば全国も同様ではありますが非常に正答率の低い問題というのは、いくつかの資料から必要な情報を取り出して自分の考えを論ずる、というようなところがこれからの子どもたちに非常に求められていく力でありまして、そういったものが国も県も甲府市も低いところがありますので、全国平均という一つの目安もありますけれども、子どもたちに求められる力というのをきちんとつけていくことを目指していきたいと思っております。

原委員

今回のデータですと小学生の国語も少し課題であると捉えられますが、これはお願いも含めてなのですけど、内容を拝見しますと子どもの書く能力というのが課題になっていると思いますが、私は日頃の生活の中で、大人も少し反省をしなければいけないのですが、本当でしたら書くべきところをメールやラインで短い文章にしまい、子ども達の日常生活の中に書くという行為が本当に減ってきていることに危機感を感じており、例えばラインのやりとりなんかでも「了解しました」が「りょ」とか場合によっては「り」と、物凄い短い文章で行き来をしているという場面を見たことがあります。子どもが日常生活を送っていく将来に向けてもそうですし、大学を目指す子どもたちにとっては、マーク式のセンター試験がいよいよ終盤を迎えまして、今小学校・中学校の子どもたちは、記述式の大学入試共通テストを受けなければなりませんのでその点におきまして、やはり書くということに是非少し力を入れていただいて、甲府市の子どもはきちんとものが書けるね、文章が良いねと言われるような、そういう教育を是非心がけていただきたいと思いますというお願いです。

小林教育長

他にはないでしょうか。

堀委員

甲府市の先生方、たとえば一学年の担任をしている先生方とか同じ教科の担当をしている先生方が集まって情報交換というかそういうような機会というのはあるのでしょうか。

松田学校教育課長

校内であれば、校内での教員の研修会というのは多くの学校で毎月のように行われておりますし、市全域という面でも教育研究協議会という機会がありまして、年間9回くらいは教科毎の先生とか領域毎にわかれて研究や情報交換をするような機会があります。

堀委員

そういう中でも今回の調査結果とか課題についても論議されるということなのですね。

松田学校教育課長

はい。各学校におきまして自校の結果を分析して改善策ということに取り組みますし、そういった教科毎の教員の研修の場におきまして市全体の状況確認や改善策について検討する場があります。

堀委員

市としては平均でいくつというのがありますけど、恐らく各学校によっても格差があるのではないかと思いますので、そういった場で本当に学力が伸びているところの情報などの共有が改善に繋がっていくと思われましたので質問させていただきました。これからもよろしく願いいたします。

小林教育長

県や市教委が中核となる教員を集めてこの調査結果のポイント等の説明をして、各学校に還元するというのもやっていますよね。

松田学校教育課長

はい。9月は運動会や学園祭のシーズンなのですが、10月の早々にも各学校の代表者を集めてこういった資料など、また典型的な問題などを示しながら説明をしたり、各学校の取組みを促すような集会を予定しています。

堀委員

ありがとうございます。

小林教育長

他にはないでしょうか。

原委員

質問ではないのですが、私は常々新聞を子どもが読むといいなあと思っていますが、なかなか新聞を取っているお宅も減ってきており、もし取られているのであれば、私の家庭での話で申し訳ないのですが、我が家では小学校の時から一面の一番大きな記事を毎日声に出して読むということをしてきました。新聞を子どもが取りに行き、父親のところに持ってきて一面の一番大きな記事を読む中で、知らない漢字が出てきたら一緒に読んであげたり、また、何が今世の中で一番騒がれていることなのか、話題になっているのかを朝一番でちょっと知るだけでも、社会について興味を持つということがあるので、我が家ではそういうことを薦めていました。そんなに難しいことではないので、もしよろしかったら薦めていただきたいと思います。8月1日の山梨日日新聞の記事で、学力調査についての問題があったのでみなさんご覧になったと思うのですが、新聞を読むほど正答率が高くなるとありますので、是非たくさんではなくていいので、読むという習慣を少しずつつけていくだけでもよろしいのかなと思いますので、私のおすすめですけど経験談からちょっとお話をさせていただきました。いかがでしょうか。

松田学校教育課長

ご承知のとおり、調査の中にも読書量とか雑誌を読む機会が多い子達の方が、学力調査等の結果が良好であるというような調査結果もあります。市内におきましても、NIEということで新聞を教育にということで昨年度まで石田小学校、北西中学校で研究指定を受け、教育に学校の中で授業や色々な場面で使って研究したというのがありますし、一部の学校では読書の時間に新聞を読むような日を設定しています。ちょうどこの度県の教育委員会の方でも新聞ワークブックというのを新たに作成して、小学校5、6年生配布していただいたところですが、またこういったものを使いながら子どもたちが新聞を読む機会が増えるよう取り組みたいと思います。

原委員

ありがとうございます。よろしく申し上げます。

小林教育長

他にありませんでしょうか。

市川委員

先ほど書く活動とかそういうものを大切にというお話があって、そういう面からすると甲府スタイルの授業というのは、1時間の授業を振返って自分の理解したことや学習したことを書くというような活動を設定するような流れになると思うのですが、授業の流れの中で書くというのはどうしても時間がかかります。それでどうしてもそここのところをなかなかうまく取り入れることができないということは、実際には結構あると思うように感じますが、是非甲府スタイルの授業を進める中で、そういうのをうまく取り入れ授業の方でまた指導主事の先生方を通して、各学校に遂行させていただけるような取り組みをしていただければと思いましたのでよろしく願いいたします。

小林教育長

他にはないでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは確認いたしました。

【原案どおり確認】

(教育委員会確認)

3 閉会

小林教育長

それではこれもちまして、9月定例教育委員会を閉会します。